

## 平成26年度第2回国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日 時 平成26年12月19日(金) 13:00～14:40

場 所 国立岩手山青少年交流の家 第3研修室

出席者 (施設業務運営委員)

大石泰夫	盛岡大学 文学部 教授
熊谷雅英	滝沢市教育委員会 教育長
石川正悦	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
菊池清太	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
主濱惠悦	滝沢市子ども会育成連合会 会長
白木貞彦	滝沢市立一本木小学校 校長
神初見	(株)IBC岩手放送 取締役放送本部長
番場武明(代理)	青森県教育庁 生涯学習課 社会教育主事
糸田和樹(代理)	秋田県教育庁 生涯学習課 社会教育主事
松下洋介	岩手県教育委員会 生涯学習文化課 総括課長
吉田純一(代理)	宮城県教育庁 生涯学習課 課長補佐
横澤繁	岩手県レクリエーション協会 理事長

(職員)

三上所長、長代次長、東主幹兼総務係長兼管理係長、氏家主任企画指導専門職、佐々木副主任企画指導専門職、中田企画指導専門職、中村企画指導専門職、田口事業推進係長、小綿管理係主任、古川管理係員、三浦総務係員

(法人ボランティア)

山本真輝

- 1 挨拶(所長)
  - 2 日程・資料の確認(次長)
  - 3 施設業務運営委員及び職員の紹介
  - 4 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明等
- ① 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明

- 1) 会議資料に基づき、「さんりく体験!探検ツアー 最初の一步～岩手横断370km～」、「タートルズキャンプ～自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～」、「体験活動支援セミナー・夏」、テンパークちゃれんじくらぶ・夏」、法人ボランティア関係事業について、企画指導専門職からそれぞれ説明を行った。
- 2) 会議資料に基づき、今年度11月までの利用実績・満足度及び12月からの利用者数見込みなどについて、事業推進係長から説明を行った。
- 3) 会議資料に基づき、滝沢市との連携協力に関する協定、人員削減計画について、次長から説明を行った。
- 4) 会議資料に基づき、社会教育功労者表彰、交流の家組織図について東主幹兼総務係長兼管理係長から、今年度予算などについて小綿管理係主任からそれぞれ説明を行った。

### ②協議

意見・質疑応答

(交流の家の運営状況について)

委員：今年度の7月の宿泊、10月の日帰りの利用者数について、昨年度に比べ大きく減っているが、何か理由があったのか。

**事業推進係長：**7月の宿泊者数減少について、人数の多い団体のキャンセルが発生したためである。10月の日帰り利用者数減少については、滝沢市産業まつりにブース出展をしており、その時の来客者数を日帰り利用者としてカウントしているが、開催時期が去年は10月であるのに対し、今年は8月となったために10月分の利用者数が減ってしまった。

**委員：**さんりく体験ツアーの各活動について、安全性確保の観点から現地の方に支援を依頼すれば、怪我などのトラブルに対し、より迅速な対応が可能になるのではないかと。

**次長：**本事業に限らず、他事業も含めて検討していきたい。

**所長：**今回のさんりく体験ツアーにおいて、職員が何度も現場で安全確認を行ってきたが、子どもが怪我をするという事案が発生してしまった。今後、所内外を問わず気を引き締めて安全管理をしなければならない。

**委員：**さんりく体験ツアーについて、様々な団体から支援してもらっただけでなく、一緒に参画してもらおうという視点で事業を進めていけるのではないだろうか。震災復興に向けた取り組みとして、国立岩手山青少年交流の家では、東北にある国立の施設と共同で事業等を行う予定はあるか。

**次長：**東北地区に国立の施設は4つあるが、その中で所長会議、次長会議、連携事業など「体験の風をおこそう」運動を中心としながらも、震災復興を念頭に置いた活動を来年度も進めていく予定である。

**委員：**滝沢市広報誌を活用した広報活動について、これからの宣伝効果によって変わってくると思うが、テンパークまつりのような事業や交流の家を利用する際の条件などがまだまだ周知されていないと感じる。そこで、テンパークまつりの時に伝承活動や神楽、さんさ踊りなどをやっている滝沢市内の小中学生に発表の場を提供すれば、発表する子どもを見にくる父兄も呼び込むことができ、交流の家を知るきっかけ作りになるのではないかと。ぜひ、検討願いたい。

**所長：**今年のテンパークまつりの来場者は少なかったと感じている。また、当施設についてもまだまだ周知できていないとも感じる。滝沢市内の若い保護者の方々も、学生の頃に当施設で宿泊研修を体験していない方が多いのではないかと考えている。このような方への働きかけについて、提案いただいたことを踏まえ、子ども会や芸能団体の方々からの話を取り入れながら取り組んでいきたい。

**委員：**さんりく体験ツアーについて、震災の風化を防ぐ意味合いも含めて、ツアーに参加した子ども達と被災地の子ども達同士の交流の場を今後作ってもらえないか。

**次長：**さんりく体験ツアーについて補足させていただくが、これまでは被災地の子どもが内陸の方に来てリフレッシュするというところに重きを置いていたが、内陸の子どもが被災地でホームステイをし、交流するという活動を新しく取り入れて行った。

### ③平成27年度国立岩手山青少年交流の家の方針説明

- 1) 会議資料に基づき、方針の概要について、次長から説明を行った。
- 2) 会議資料に基づき、「通学合宿 テンちゃん一家の一週間」、「ミュージックキャンプ」、「えいご de キャンプ」等の教育事業計画について、主任企画指導専門職から説明を行った。
- 3) 会議資料に基づき、野外炊事の直接指導方法の変更内容について、主任企画指導専門職から説明を行った。

### ④協議

#### 意見・質疑応答

(平成27年度国立岩手山青少年交流の家の方針)

**所長：**補足させていただくが、来年度の事業計画にある「HowTo ボランティア」と「えいご de キャンプ」について、NPO 団体の NICE を通じて HSBC グループにおいて事業費を負担してもらえようとなった。また、当所の事業推進係員の研究に対しても研究費も出していただけることにもなった。このことから、当所での活動がこのような形で評価されてきていると考えている。

**委員長**：「通学合宿 テンちゃん一家の一週間」は事業開始から何年目か。

**所長**：3年目である。参加受入可能人数がまだ少ないが、市内全学校の児童を受け入れたいと考えている。来年度にもう一度試行して、教育委員会の意見を伺いながら規模拡大の方策を検討していきたい。

**副委員長**：本事業に子どもを参加させた PTA 会長と会った際に、すばらしい事業である旨の話を伺った。また他の PTA 会長達にも話が広がり、自分の子どもも参加させたいという声が上がっている。今後、受入人数を拡大していくには、今年度実施した規模のものを時期をずらして複数回行っていくことが良いと考える。

**所長**：ぜひ PTA 及び保護者の方々に、機会を見て本事業の説明をさせていただきたい。

**委員**：タートルズキャンプについて、子ども達の変容を掴む指標などを可能な範囲で、ホームページなどで情報発信できないか検討いただきたい。

**委員**：施設の利用者について、子ども以外にも企業の研修等に利用できるということを PR していると思うが、具体的にはどのような働きかけを行っているのか。

**事業推進係長**：新設される専門学校等に訪問して施設の利用を呼びかけている。企業に対しては、特に働きかけは行っていない。

**委員**：専修学校等が利用する場合、どのような活動を行っているのか。

**事業推進係長**：新入生オリエンテーションや日帰りのレクリエーションが主となっている。

**委員長**：冬季に利用者数が減ってしまうことについて、何か新しい事業を考えているか。

**事業推進係長**：冬季に屋外活動をする団体が少ないため、スポーツ雪合戦など冬ならではのプログラムを PR していきたい。

**委員**：野外炊事の直接指導方法の変更について、人員削減の延期に関する要望が通る通らないにかかわらず、平成 27 年度から行っていくのか。

**所長**：その予定である。

**委員長**：変更後の直接指導の内容を徐々に定着させていくということで、来年度から実施していくことが了承された。

**委員長**：本会議において提案された平成 27 年度の方針について、委員の意見を取り入れた上で、所に一任して実施していきたい旨が提案され、了承された。

以上